

電話会議開催日：2024年8月7日

## 2025年3月期（2024年度）第1四半期連結決算 電話会議 内容説明スクリプト

### I. 全般概況

本日発表いたしました、当社2025年3月期第1四半期決算の概要についてご説明します。なお、事業環境等につきましては、決算短信に記載しておりますので、のちほどご参照ください。

#### 1. 2025年3月期（2024年度）第1四半期 連結決算 業績概要

2024年度第1四半期の連結決算の概況をご説明いたします。決算補足説明資料の2ページをご覧ください。

2024年度第1四半期の金属価格および為替レートについて説明します。

3月決算会社（4-6月）：銅、金の価格は上昇。ニッケル、コバルトの価格は下落。為替は円安。

12月決算会社（1-3月）：銅価格は前年を下回り、為替は円安。

連結売上高は、前年同期間に比べ411億円増加し、4,103億円となりました。

連結税引前利益は、前年同期間に比べ36億円増加し、307億円となりました。

その主な増減要因は、2ページ下段のグラフでお示しているとおりです。

##### a) 好転要因：

- ・価格差/条件差：金価格の上昇
- ・為替差：円安の進行
- ・在庫評価：銅、金価格の上昇や為替の円安進行

##### b) 悪化要因：

- ・価格差/条件差：ニッケル・コバルト価格の下落
- ・数量差：計画通りではあるものの、採掘順による菱刈鉱山の減産、減販
- ・コスト単価差：海外銅鉱山のコスト単価差の悪化

#### 2. 2024年度 連結業績予想

続いて、当年度の連結業績予想の概況をご説明します。決算補足説明資料の3ページをご覧ください。

はじめに、今回の業績予想の想定為替レートについて説明します。

今回の業績予想では、為替与件（2024年度2Q～4Q）は「150円/\$」としています。7月上旬には1ドル160円台で推移していましたが、7月末から8月上旬にかけて、為替相場の水準が円高方向に進みました。その結果、足元実勢為替レートの水準と今回の業績予想の想定為替レート「150円/\$」との間に差が生じています。しかし、まだ先行きが不透明な状況が続いており、見極めが難しいことから、当初想定していた為替レートを使用した業績予想を開示しております。

なお、決算補足説明資料の18ページに、前提となる金属価格や為替相場の変動による業績予想への影響を試算いただくための「感応度（Sensitivity）」を記載しておりますので、後ほどご参照ください。当社の場合、円安は業績を押し上げ、円高は業績を引き下げる効果があります。また、この感応度には、在庫評価影響は含まれていませんので、ご注意ください。

それでは、今回見直しました業績予想について、説明します。

まず、連結税引前利益は、①8月予想は②5月予想に対して200億円の増益となる1,110億円と予想しています。

その主な増減要因は、3ページ下段のグラフでお示しているとおりです。

a) 好転要因：

- ・価格差/条件差：銅価格、金価格の上昇
- ・在庫評価：銅、金価格の上昇や為替の円安進行
- ・緩やかな材料事業の回復

b) 悪化要因：

- ・価格差/条件差：ニッケル・コバルト価格の下落
- ・コスト単価差：海外銅鉱山のコスト単価差の悪化

なお、前回業績予想で「大型プロジェクト効果」としてお示した、現在ランプアップ中のケブラダ・ブランカ銅鉱山（チリ）とコテ金鉱山（カナダ）の損益についても、今回、足元の状況をふまえて見直しを行いました。前回から変更はありません。また、右から4列目の「その他」には、詳細は申し上げられませんが、5月予想でもご説明したとおり、今年度中に発現する可能性がある減益要因として「リスク要因」の数十億円を含んでいます。

### 3. 2024年度 実力損益

3ページの下に掲載したグラフの右端に、2024年度の「実力損益」の予想を載せています。これは、2024年度8月業績予想から、金属価格や為替の変動局面において発生する一時的な要因と、その他の特殊要因を除いたものです。

今回の業績予想における実力損益は「1,200～1,100億円」で、前回予想と同水準です。

銅価格の上昇、材料事業の回復が好転要因ですが、一方で、ニッケル価格やコバルト価格の下落や、銅鉱山でのコスト単価増が悪化要因です。

金属価格の変動はやむを得ない部分ではありますが、数量差やコスト単価差など、「ものづくり」の部分で実力損益の悪化要因になっている点は、当社として引き続き手を打っていかねばならない部分です。

当社の事業特性上、前提となる金属価格や為替の変動に応じた実力損益の変動は避けられないものですが、それぞれの前提条件のもとで利益を最大化するべく、今後も引き続き、安定操業の維持、生産効率の向上、および成長戦略の推進に取り組んでまいります。

### 4. 配当

配当についてご説明します。

当社は、2021年中期経営計画（以下「21中計」）において、連結自己資本比率50%超を維持することを財務戦略の基本とし、配当方針として「剰余金の配当は、原則 連結配当性向 35%以上とし、下限指標はDOE1.5%とする」を掲げています。

5月の決算予想発表時には、連結業績予想をベースとして年間配当予想を1株当たり99円としました。今回、業績予想の見直しを行いました。5月9日の公表から3か月しか経過していないこと、また、非鉄金属価格および為替のボラティリティが大きく、先行きの不透明感が強いことから、業績予想の見直しにあわせた配当予想の見直しは見送ることとしました。

なお、次回の第2四半期決算発表時では、これまで同様、当社の配当方針に則った年間配当額の見直しを計画しています。

## Ⅱ. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、決算補足説明資料について、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

### 1. 2024 年度第 1 四半期決算 vs 2023 年度第 1 四半期決算

まず 2024 年度第 1 四半期と 2023 年度第 1 四半期の比較について説明します。

#### 1) 4 ページ セグメント別決算実績 売上総利益増減 ※コテ金鉱山を除く

それでは、4 ページ 2024 年度第 1 四半期実績 vs 2023 年度第 1 四半期実績をご覧ください。

【資源セグメントの売上総利益】 67 億円（120 億円の減益）

ページ中段の「売上総利益増減説明」に記載のとおり、海外銅鉱山が大きな減益となりました。

##### ①菱刈鉱山

- a) 好転要因：金価格の上昇による価格差と円安による為替差。
- b) 悪化要因：
  - ・数量差：採掘順の影響で、減産、減販（前年同期比 -0.4 t）
- c) 年間計画：2024 年度の販売金量の計画は 4.0t/年から変更なし。

##### ②海外銅鉱山

- a) 悪化要因：
  - 人員不足による採掘量の減少や品位の低下などが続いています。
  - ・価格差：12 月決算会社に適用される 1-3 月の銅価格は、前年同期で下落。
  - ・コスト単価差：減販に加え、修繕費用等が増加。

【製錬セグメントの売上総利益】 351 億円（247 億円の増益）

下段にお示した製錬の売上総利益の増減説明のとおり、銅系、ニッケル系ともに好転しました。

##### ①銅系

- a) 好転要因：
  - ・在庫評価：円安の進行と金属価格の上昇。
  - ・条件差：主に加工収入（TC/RC）の差。

##### ②ニッケル系

- a) 好転要因：
  - ・在庫評価：円安の進行と金属価格の上昇。
  - ・コスト単価差：エネルギーコストや操業資材の下落。
- b) 悪化要因
  - ・条件差：ニッケル価格、コバルト価格の下落
  - ニッケル系は、加工収入が金属価格に連動する「シェアリング」という制度が適用されるため、金属価格の変動が業績に大きな影響を与えます。

## 2) 5 ページ 材料事業の製品群別売上高

5 ページ上段、材料事業の製品群別売上高です。電池材料については、堅調な需要が続きましたが、原料の金属価格が下がったため、減収となりました。

機能性材料については、長引いていた電子部品向け部材の在庫調整が進み、需要は緩やかながらも回復基調に転じたことで、増収となりました。

## 3) 5 ページ 持分法投資損益

### ①セロ・ベルデ、カンデラリア

いずれも減益。給鉱品位が低下し、減産減販。また、12月決算会社に適用される1-3月の銅価格下落により価格差悪化。

### ②その他

主に、ケブラダ・ブランカ銅鉱山の生産開始にともない、前年同期には発生していなかった一部資産の償却とランプアップ等各種費用のPL計上によるもの。

## 2. 2024年度年間予想 8月 vs 5月

前提となる金属価格の期間平均は、5月予想と比べ、ニッケルとコバルトは価格下落を、銅と金は価格上昇を想定し、為替は円安を想定しています。

### 1) 6 ページ 対5月予想比較 セグメント別

それでは、6 ページ 2024年度8月予想 vs 5月予想をご覧ください。

なお、冒頭にご説明した今年度中に発現する可能性がある減益要因の「リスク要因」数十億円は、5月予想時点では、「調整額」のセグメント損益の段階で計上していましたが、8月予想では「調整額」の売上総利益の段階で計上していますので、ご注意ください。

【資源セグメントの売上総利益 ※コテ金鉱山を除く】 680 億円 (60 億円の増益)

#### ①菱刈鉱山

a) 好転要因：金価格の上昇による価格差。

#### ②海外銅鉱山

a) 好転要因：銅価格の上昇による価格差。

b) 悪化要因：

・コスト単価差：モレンシー銅鉱山の採掘量の減少や品位低下、修繕費用の増加。

なお、資源セグメントの売上総利益には、ランプアップ中のコテ金鉱山の売上総利益も含まれていますが、前回5月予想からは大きく変わっておらず、年後半に利益貢献をする想定です。

【製錬セグメントの売上総利益】 670 億円 (140 億円の増益)

a) 好転要因：金属価格の上昇と円安による銅系の在庫評価影響の増加。

b) 悪化要因：ニッケル、コバルト価格の下落によるニッケル系の価格条件差悪化。

## 2) 7ページ 材料事業の製品群別売上高

7ページ上段、材料事業の製品群別売上高です。

電池材料事業については、堅調な需要が続くと想定しており、また、第4四半期からは新工場での生産開始を目指して立ち上げを進めています。

機能性材料事業では電子部品市場の回復はまだら模様であり、一部製品群では再び在庫調整に入るとの見方ができるなど、その回復は緩やかなものにとどまると想定しています。

## 3) 7ページ 持分法投資損益

### ①セロ・ベルデ、カンデラリア

金属価格の上昇と円安の影響はあるものの、操業費用増によるコスト単価差悪化。

### ②その他

ケブラダ・ブランカ銅鉱山の生産数量は前回予想通りですが、立ち上げにかかる各種コストの増加から、コスト単価差悪化。

最後に、19ページに記載の通り、2024年8月2日に統合報告書2024とサステナビリティレポート2024を発行し、当社Webサイトに掲載しました。両報告書では、当社グループが事業を通じた社会課題の解決に向け従来取り組んできたことに加え、2024年6月に就任した新社長が経営に込める変革についての考えも記載しています。ぜひご覧ください。

以上